年頭のご挨拶

お慶びを申し上げます

上ノ国町長
工藤（くどう） 昇（のぼる）

町民の皆様、新年おめでとうございます。

希望に満ちた輝かしい令和六年の初春を、ご家族お揃いで健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

私は町民皆様の温かいご支援のもと、悠久の歴史と伝統に輝く上ノ国町の町長として、今年で二十二年、六期目の折り返しを迎えることとなりましたが、皆様には、平素より上ノ国町行政全般に対しまして、ご支援とご協力を賜り衷心より感謝申し上げます。

これまでの二十一年間を顧みますと、就任当時は厳しい財政状況でありました。

そのため、平成十七年度を初年度とする五年間の行財政改革（自立プラン）を策定し、厳しい財政状況や目指すまちづくりの形について、町民皆様に共通の認識を持っていただくようお願いし、職員の給与や各種団体への補助金の削減、町有施設の運営見直しや廃止など、行政・財政・組織改革を徹底。改革を断行した結果、公債費償還のピークを過ぎるなど、平成二十一年には財政健全化の目途が見えてきました。このため「町民には我慢と忍耐を強いてきたが、明るい施策も展開したい」との私の方針の一つとして、平成二十一年八月より全国で初めてとされる高校生までの医療費の無償化を行いました。

現在は子育て支援施策として、保育料・学童保育負担金の無償化、小中学生の学校給食費の全額補助制度、出生祝金支給制度などを行っています。この背景には日本創成会議が発表した将来推計人口で二千四十年には一千九百八十八人と大幅な減少が推計されており、地域の活力低下や産業の低迷が懸念され、将来的に自治体を維持できない可能性があると指摘されたことにあります。そのため本町では、人口減少問題は自治体の存亡に関わる最重要課題と位置づけ、少子化の進行を食い止めるべく、これまで行ってきた子育て支援策に加え、出産から高校卒業まで切れ目のない施策を行い、子どもを産みやすい、育てやすい「子育てにやさしいまち」を目指し、この支援策を通じて、将来にわたる子育ての金銭的負担を軽減し、一人でも多くの子どもを産み育てていただくことを期待しているところでございます。

また、持続可能なまちづくりを進めるためには、自主財源の確保が絶対的に必要となることから、本町は大型風力発電の誘致に力を入れています。町の固定資産税歳入予算は、一億九千万円程度ですが、そのうち陸上風力関連の固定資産税が、三千五百万円を占めており、今後は設備の更新により継続的に税収を確保することができます。先ほど述べましたが、今後